

高校家庭科の高齢者介護問題に関する ロールプレイ教材開発 —ロールプレイング—

山本 圭郎*・山野 京子**・入江 和夫

The Development of Teaching Materials for Role Playing in Senior High School Home
Economics with the Theme of Problems in Nursing Care for Elderly People

YAMAMOTO Yoshiro*, YAMANO Kyoko**, IRIE Kazuo

(Received January 15, 2008)

キーワード：ロールプレイ、教材開発、高齢者介護

はじめに

日本は2015年に超高齢社会(4人に1人が65歳以上の高齢者)に突入することが予測¹⁾されており、今後、高齢者と触れ合う機会、家庭内で介護を必要とする高齢者の増加が考えられる。NHKが放映²⁾した「防げなかった悲劇～相次ぐ介護心中・殺人事件～」や武田の著書³⁾「老女はなぜ家族に殺されるのか」は高齢者介護問題を端的に示した内容であり、そこには「家事に不慣れ」、「介護は女性がするもの」、「家族の一員としての責任感の欠如」などが事件の要因として挙げられている。これらは家庭科の学習内容であるにもかかわらず、高齢者介護に十分反映なされていない。このことから家庭科と高齢者介護とをリンクさせる学習は非常に重要であると考えられる。

家庭科で高校生を対象にした高齢者に関する授業例として、森本⁴⁾が、高齢者との関わり方を目的に疑似体験をさせる授業を行っている。また、川添⁵⁾は、高齢者イメージに関する意識調査の結果に基づいた授業を行っている。しかし、これらは高齢者介護問題を把握する観点の授業ではない。伊藤⁶⁾は、シナリオ作成、ロールプレイングによる体験的な授業を行っているが、主眼は家族や家庭生活の在り方の理解であり、高齢者の介護に関する内容ではない。

そこで、著者らは大学生に行った前報の調査結果⁷⁾から高校生の高齢者介護観を予想し、指導案を作成した。一次の第1時では高齢者介護問題の理解を目的とした授業を行い、第2時では問題解決を目指したロールプレイの台本作りを行った。二次の第1時ではロールプレイ実演とそれの生徒同士による評価、第2時では授業のまとめを行った。ここでは指導案、ワークシート教材、評価表などについて工夫した点を述べていく。

*山口大学大学院教育学研究科院生 **山口県立青嶺・美祿工業高等学校教諭

1. 方法

- 1 対象生徒 美祢市立青嶺・美祢工業高校1年生(43人)
- 2 授業実践日 2007年10月4日(2時間)、18日(2時間)

2. 結果及び考察

2-1 指導案及び教材

高等学校学習指導要領では、「高齢者の生活と福祉」として高齢者に関する学習がある。教科書⁷⁾では、①高齢期を魅力的に生きる②高齢者との交流③高齢社会の現状と福祉の3つの単元があったが、高齢者介護問題解決につながるような具体的な学習内容は記載されていなかった。そこで高齢者問題をリアルに捉えさせるためにロールプレイングを取り入れることにした。

一次の1時限目には、高齢者介護問題の知識・理解をさせることにした。高齢者について学習する意欲を高める工夫として、実際に起こった高齢者介護問題に関するビデオを用いることにした。また、介護で家族が協力することの大切さ、高齢者介護と家庭科の家事技能のリンク、円滑な介護サービス利用のための生活時間の調整、家族間コミュニケーションの必要性を把握できるように工夫した教材a(=図3:高齢者問題、介護サービスのワークシート)、b(=図4:介護サービスの利用、介護に関わる法律及びそれに反した新聞記事)を作成した。また、一次の2時限目には、高齢者介護問題の知識・理解の定着のために具体的に高齢者介護問題についてシナリオを作成させるために教材c(=図5:劇作成のためのワークシート)、d(=図6:シナリオ作成シート及び台詞用シート(班用))を作成した。これを用い、まずは個人で作成させ、10分後に班で集合させ、個人で考えたシナリオを持ち寄って、班で演じるものを1つ選ばせ、それについてさらに内容を深めさせることにした。二次の1時限目には、他班の劇を評価するため、二次の2時限目には、この授業全体のまとめのためにe(=図7:e-1劇の評価シート(個人メモ用)、e-2(提出用)、e-3授業のまとめワークシート)を作成した。以下に1)指導案、2)教材を示した。

【1】指導案(一次の1・2時限目)

高齢者に関する学習への興味・関心、意欲を喚起させ、介護の不安感をなくすような工夫、衣食住の家事技能と介護をリンクさせ、生活時間の調整・家族間コミュニケーションによって円滑な介護サービスの利用ができるような観点から、一次の1・2時限目で使用する指導案を作成したので、以下に示した。

- i)主眼:「高齢者介護の問題点に気づかせ、より良い介護の方法について理解させる」
- ii)本時の設定意図:ここでは高齢者問題を身近に、しっかり認識させるために、そのストーリー作成及び実演が大きな効果を及ぼすのではないかと考え、実践した。
- iii)題材名:「ロールプレイを活用した高齢者介護問題の理解と解決」

iv) 学習の展開

時間配分		学習内容	生徒の活動	支援上の留意点
1 時 限 目	導入	①NHK「防げなかった悲劇～ 相次ぐ介護心中・殺人事件」 のビデオを見る。	①NHK「防げなかった悲劇～ 相次ぐ介護心中・殺人事件」 のビデオを見ながらワーク シート(教材a)に記入する。	・実際に起きた事件を元に構成されて いるビデオ内容から介護の現状や 問題点を考えさせる。ビデオを見るだけ でなく、記入することにも注意する。
	展開	② I 高齢者介護の問題点の把握 とその解決策の理解 II 介護サービスの理解	・ワークシート(教材a)に沿って、 高齢者介護の問題点を把握し、 その解決策を考える。 ・資料を見ながらワークシート (教材b)に記入する。	・①の内容を定着させるために内容に 沿ったワークシートを利用し、問題の 把握とその解決策を考えさせる。 ・資料から介護サービスを理解させる。 また、新聞記事からサービスを利用 せずになった例を挙げ、なぜ利用しない のかを考えさせる。
2 時 限 目	展開	③高齢者介護と家庭科との関連	・高齢者介護と家庭科との関連に 気づき、自分たちにもできること があることに気づく。(教材c)	・高齢者介護は女性だけではなく、 男性もできるように家庭科で学習して きていることに気づかせる。
		④Ⅲ 高齢者介護に関する劇の 作成(個人用) Ⅲ 高齢者介護に関する劇の 作成(班用)	・個人でより良い高齢者介護に 関する劇を作る。(教材d) ・モデル家族を例に班で高齢者 介護に関する劇を作る。(教材d)	・①、②の知識の定着として、高齢者 介護のついて、どのような方法が 介護者・介護される人にとって最も良い 方法なのか、ストーリーを考えさせる。 ・個人で考えたストーリーを持ち寄り、 班で次時に演じるストーリーの台本を 考えさせる。
	まとめ	⑤次時の学習内容	・次時の学習内容と宿題に ついての説明を聞く。	・次時に班で考えた劇を実演させること を説明し、次時までに劇が実演できる 状態にしておくように注意しておく。

図 1：高齢者介護問題の理解と解決のための指導案（一次の1・2時限目）

1時限目は、高齢者介護問題の知識を補充するための内容である。導入の①「NHKのビデオ」は、実際に起こった介護疲れによる殺人と介護サービスを断り続けたことから手に障害を負ってしまった老老介護をしている男性の内容である。これを視聴させることによって、高齢者介護問題への興味・関心、意欲を喚起させることにした。展開の②I「高齢者介護の問題点の把握とその解決策の理解」によって、①の復習とともにどうすれば介護殺人などを防げるのかを考えさせることにした。展開の②II「介護サービスの理解」によって、在宅サービス・施設サービスがあり、それぞれの働きと違いを学ばせることにした。

2時限目は、高齢者問題の理解と解決のためのロールプレイ台本作りである。台本作成前に展開の③「高齢者介護と家庭科との関連」によって、高齢者介護と家庭科の家事技能や生活時間の調整及び家族間のコミュニケーションが関連していることを気づかせることにした。展開の④III「高齢者介護に関する劇の作成」によって、1時限目の内容を踏まえた上で、生徒たち自身に高齢者介護問題をテーマとした劇の台本を作らせることにした。内訳は、まず個人で台本を考えさせ、その後それらを持ち寄って班でロールプレイするための台本を作成させることにした。まとめの⑤「次時の学習内容」によって、次時の学習についての説明をすることにした。

【2】指導案（二次の1・2時限目）

前時で作成させたシナリオを実演し、その様子を他班の生徒が見て評価させ、その後、まとめによって捉えさせたいことを再確認させる指導案を作成したので以下に示す。

i) 主眼：「劇の実演(ロールプレイング)を通した高齢者介護問題の解決と理解」

ii) 本時の設定意図：ここでは生徒たちが作成したストーリーを実演と評価をさせることで、高齢者介護問題の理解と解決策が主体的に学習できるのではないかと考え、実践した。

iii) 題材名：「高齢者介護問題の解決のための劇の実演(ロールプレイング)とその評価」

iv) 学習の展開

時間配分	学習内容及び学習活動	教師の支援	支援上の留意点
1 時 限 目	導入 ①劇の評価のプリント(教材A-1、2)を受け取り、評価の方法について説明を受ける。 ・評価は3つの観点(ゆとりある介護の大切さ、家族での協力の大切さ、衣食住の家事技能の大切さ)から4段階で評価と簡単な感想を記入。 ②劇の練習、最終確認。	・劇の評価のプリント(教材A-1、2)を配り、劇を鑑賞した後の評価の方法について説明する。	・3つの観点から評価することを説明しておくことで、その観点から劇を鑑賞させるようにする。
	展開 ③劇を実演。 ・1～4期はSTORY①(介護経験のない家族)、5～7期はSTORY②(すでに介護経験のあるある家族)について、演じる。 ④実演後、劇の観点の発表。 ⑤劇の評価(個人)。 ⑥全ての劇終了後、プリント(教材A-2)に記入。	・最初の20分を劇の練習、最終確認に使う。 ・前回の授業の終わりに決めておくように指示した司会進行に劇が終わるまで進行を任せる。 ・考えた劇を発表させる。 ・劇を演じた後、どの観点に注目したか発表させる。 ・1つの班の劇の発表が終わるごとに一人一人に劇の評価をさせる。 ・実演後にプリント(教材A-2)に班名を記入させる。	・劇作りにキーワードを考えさせたことから演じた後にそのキーワードが劇に反映できていたか、演じてみてどうだったかを発表させる。
2 時 限 目	展開 ⑦プリント(教材A-2)の集計結果から評価の最も高かった班についての感想を発表。 ⑧教師による1～7期の講評。		・3つの観点から感想を発表させる。 ・⑦までは、生徒たち自身の評価である。 ⑧の教師の評価を聞くことで、よりよい高齢者介護への対応を理解させる。
	まとめ ⑨まとめ プリント(教材A-3)を受け取り、高齢者介護と家庭科の学習内容が密接に関連していることに気づく。 高校の家庭科は、中学と違い自分の家庭を築くための学習であることの認識。 ・ゆとりある介護の6つの要素と家庭科の関連6つの要素とは I：家族の協力 II：家族間のコミュニケーション III：家事技能 IV：生活時間の調整 V：家族への気遣い VI：仕事の分担 VII：介護サービスの利用 である。 ・中学校家庭科の学習によって、すでに自立ができて理解し、高校家庭科では今回のような介護問題などを打破するための男女の協力、家族の一員としての責任感を学ぶことによって家庭を築く重要性を学習することの理解	・プリントを配り、授業のまとめ。 ・第1回目 & 今回の授業のまとめ ・6つの要素は劇を作成したときのキーワードであることに気付かせる。 I：家族の協力 II：家族間のコミュニケーション III：家事技能 IV：生活時間の調整 V：家族への気遣い VI：仕事の分担 VII：介護サービスの利用 ・中学校まで家庭科の学習で個人の自立ができて前ほどこれから家庭を築いていくための男女の協力や家族の一員としての責任感を学習するのが高校の家庭科であり、高校の家庭科の学習で家庭を築くことができることからしっかりと学習する必要性に気付かせる	・教材A-3を用い、介護と家庭科の学習が密接に関わっていることに気付かせる。 ・中学校の家庭科は自立のためだが、高校の家庭科では、自分が家庭を築くことを目標にしていること、つまり自分の家庭をもてるように学習に取り組む必要があることに気付かせる。

図2：高齢者介護問題の解決のための劇の実演とその評価の指導案（二次の1・2時限目）

1時限目は、「劇の実演(ロールプレイング)を通した高齢者介護問題の解決」を主眼として、具体的に高齢者介護問題を捉えさせ、その解決法を主体的に考えさせることを通して、高齢者介護問題について深く理解させることにした。そのために生徒にシナリオを考

えさせ、実演させることにした。しかし、ただ実演するだけでは、主眼が定着しないと考えられることから他班の劇を鑑賞させ、評価することを通して、主眼に迫ることにした。導入の①で評価の方法について説明することにした。展開の②で劇の最終的な確認及び練習をさせ、③で十分な練習後、実演させることにした。なお、授業への集中力・注目度・学習意欲を喚起させるために生徒主体で行い、司会進行も生徒に任せることにした。④で、劇のシナリオを作る上での観点を発表させることにし、⑤で各班が演じ終わるごとに個人個人で劇の評価をさせることにした。⑥で教材を用い、「ゆとりある介護の大切さ」、「家族での協力の大切さ」、「衣食住の家事技能の大切さ」の3つの観点に関して、最も良かった班を記入させることにした。

2 時限目は、展開の⑦で⑥の集計結果を示すとともに生徒の評価が高かった班の劇について感想を発表させることにした。⑧で⑦の感想を受けて、山本が講評をすることにした。まとめの⑨での授業のまとめとして、より良い介護のために必要なゆとりある介護の要素とそれが家庭科の学習内容であることに気付かせ、これからの家庭科学習についての意欲を喚起させることにした。

【3】 教材

教材として a・b・c・d・e を作成した。それらについて以下述べていく。

【3】-1 教材 a 及び b (一次の 1 時限目)

高齢者問題と介護サービスの理解をスムーズできるようにするために教材 a (=図3「高齢者問題、介護サービスのワークシート」) 及び教材 b (=「介護サービスについての資料」) を作成し、以下に示した。

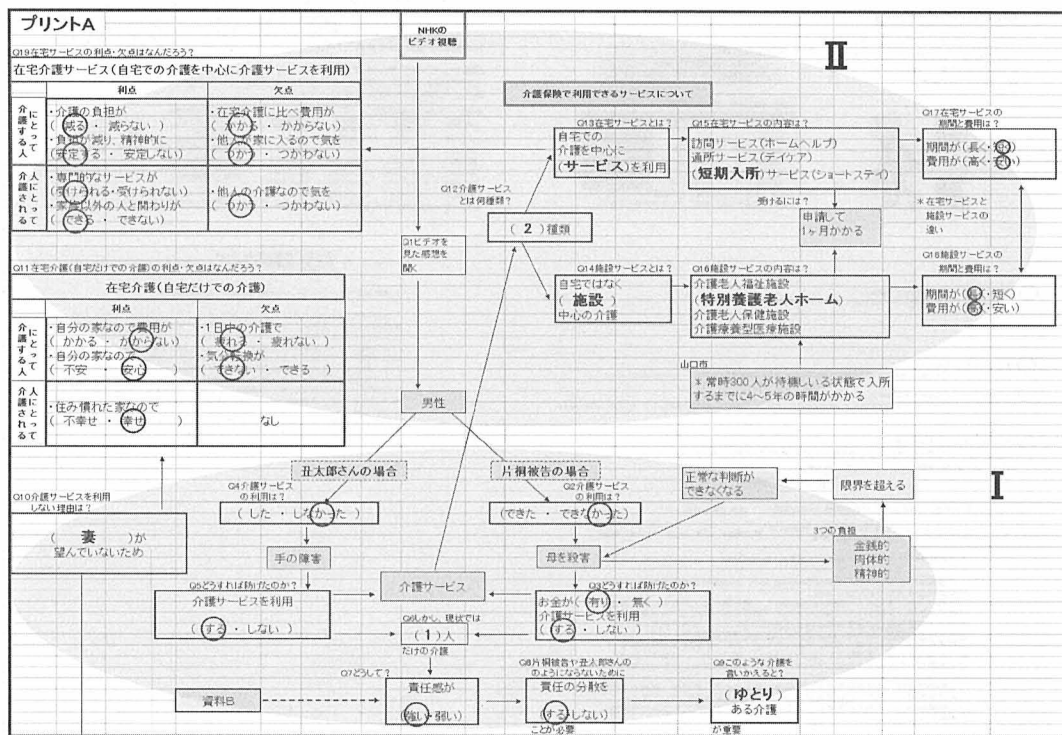


図3：教材ワークシート a 「高齢者介護問題、介護サービス」

教材ワークシート a は、「高齢者介護問題、介護サービス」の理解のためのものである。太い○及び文字は、空白の部分である。教科書代わりに新規に作成した。生徒の関心を高めるために授業の流れが明確に理解できるようにフローチャート式ワークシートを作成し、図中の設問については、回答しやすいように選択項目を多く取り入れた。図中の I では、NHK ビデオの復習とその解決法を考える内容となっている。図中の II は、介護サービス理解のための内容である。

介護保険で利用できる

在宅サービス

在宅サービスは、自宅での介護を中心にサービスを利用したい方が、希望するサービスを支給限度額（P24参照）内で組みあわせて利用します。

●訪問介護

（ホームヘルプサービス）
ホームヘルパーによる介護や、身のまわりの世話などがうけられます。

- 入浴、排せつ物の取替、洗濯サービスの提供
- 調理サービスの提供
- 通院のつきまとい など
- ※食事や薬品の取扱いがかわらず、利用できます。

●訪問看護

医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、介護支援専門員などによるサービスです。

- 往診の検診、洗濯、買い物
- 食事の準備、調理 など
- ※一人暮らしの場合など、利用できる施設があります。

●通所介護

（デイサービス）
日曜日でデイサービスセンターなどに通って、食事、入浴などの介護サービスやリハビリテーションなどがうけられます。

●みんなと暮らす

- 日常生活の介助
- 入浴、排せつ物の取替
- 調理サービスの提供
- 通院のつきまとい など
- ※食事や薬品の取扱いがかわらず、利用できます。

●訪問看護

- 医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、介護支援専門員などによるサービスです。
- 往診の検診、洗濯、買い物
- 食事の準備、調理 など
- ※一人暮らしの場合など、利用できる施設があります。

●通所介護

- 日曜日でデイサービスセンターなどに通って、食事、入浴などの介護サービスやリハビリテーションなどがうけられます。

施設サービス

施設サービスは、介護中心のサービスを利用するか、治療中心のサービスを利用するかなどによって、3つの種類の施設から選びます。利用者本人や家族が直接申し込んで、施設と契約を結びます。

●介護老人福祉施設

（特別養護老人ホーム）
福祉サービスが必要で、自宅では介護の担当者が必要となる施設です。食事や入浴などの介護やリハビリテーションなどがうけられます。（医療行為はほとんどおこなわれません。）

●介護老人保健施設

（特別養護老人ホーム）
福祉サービスが必要で、自宅では介護の担当者が必要となる施設です。食事や入浴などの介護やリハビリテーションなどがうけられます。

●介護療養型医療施設

医師の診療を必要とする方が入居する。介護療養型医療施設（病院）です。「療養病棟」として（個人型医療従事者資格）があります。

●みんなと暮らす

- 日常生活の介助
- 入浴、排せつ物の取替
- 調理サービスの提供
- 通院のつきまとい など
- ※食事や薬品の取扱いがかわらず、利用できます。

サービスの利用と費用

サービスを利用したときは、かかった費用の1割（10%）を負担します。

費用の1割を負担

利用したサービスの経費

介護保険料

負担額

利用したサービスの経費 × 10%

1か月のサービス利用額のめやす

在宅サービスを利用した場合
介護保険料として1か月に利用できるサービスの費用に上限（支給限度額）がもたせられます。限度額を超えたサービスを利用した場合、超過した分は全額自己負担となります。

施設サービスを利用した場合
利用者の負担額は、介護サービス費用の1割（食費以外）、食費代の標準負担額、日常生活費など（全額利用負担率）の合計となります。

サービス	単価	1か月のサービス利用額	利用者負担額
在宅サービス	81,500円	81,500円	8,150円
施設サービス	165,500円	165,500円	16,550円
施設サービス	134,500円	134,500円	13,450円
施設サービス	267,500円	267,500円	26,750円
施設サービス	308,000円	308,000円	30,800円
施設サービス	358,500円	358,500円	35,850円

図4：教材 b 「介護サービスの利用、介護の関わる法律及びそれに反した新聞記事」⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾

- 206 -

教材 b の「介護保険を利用できる」は、介護サービスについて教科書の内容では不十分であったため、山口市役所地域包括支援センターの資料⁸⁾から抜粋し、作成した。下部は、高齢者介護に関係のある民法「親族間の互助義務」及び刑法「保護責任者遺棄等」とそれらを犯してしまった事件の新聞記事(読売新聞)^{9) 10)}を抜粋して作成した。

【3】-2 教材 c 及び d (一次の 2 時限目)

教材 c (=図 5「劇作成のためのワークシート」)及び、生徒が劇を考えやすいように教材 d (=図 6「シナリオ作成シート」)を作成し、以下に示した。

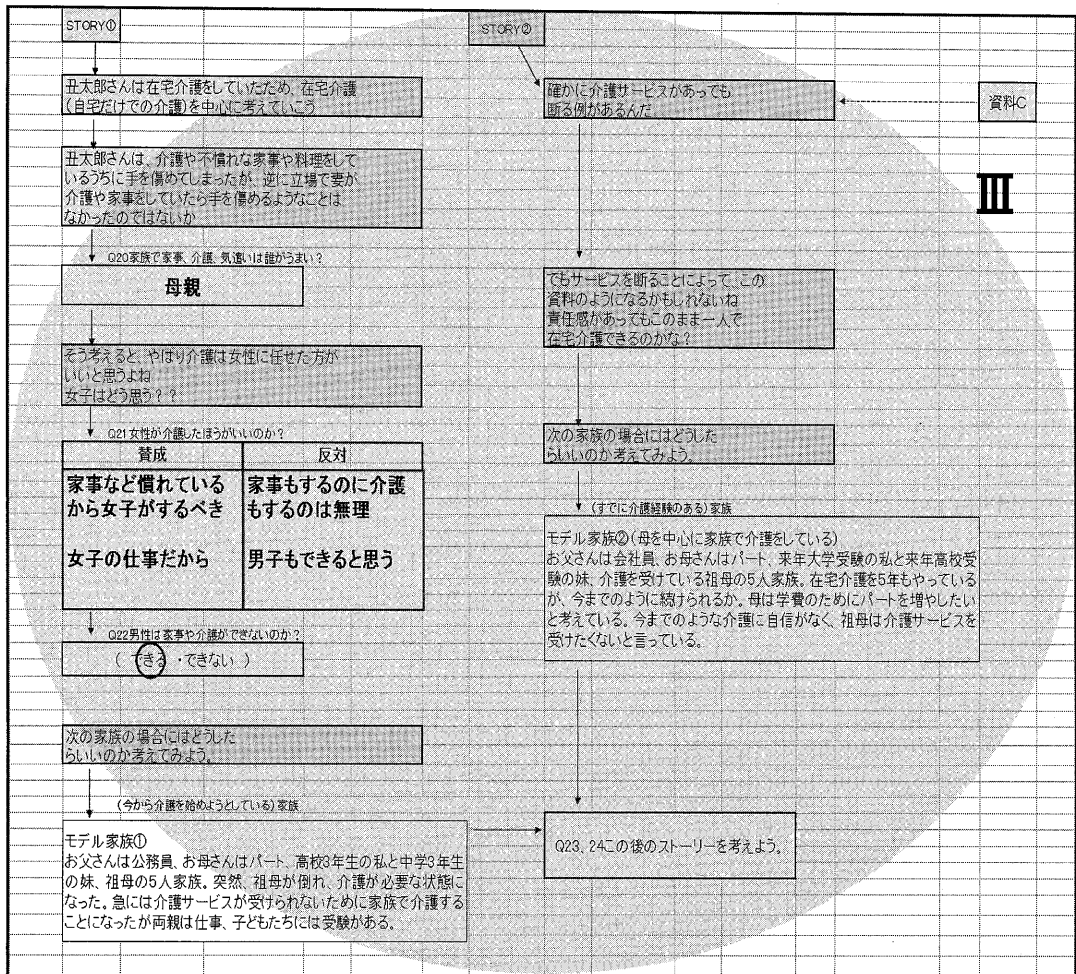


図 5 : 教材ワークシート c 「劇作成のためのワークシート」

教材ワークシート c は、「劇作成のためのワークシート」で、太い○及び文字は、空白の部分ある。生徒が劇を作成しやすいようにモデル家族を設定した。モデル家族①は、今から介護を始めようとしている家族であり、モデル家族②は、すでに介護経験がある家族である。

介護」、「家族での協力」、「家族間での気遣い」、「家族間のコミュニケーション」、「生活時間の調整」、「衣食住家事」の6つをキーワードとして示した。その下に今後の展開として空欄を設けた。「緊急家族会議一回目」として自由に記述させ、「その会議で決まったことの実行」として、決まったことを整理させた。「数日後問題発生」として、この欄で数日後に家族内で起こった問題を書かせることにした。次の「家族会議二回目」でさらにその問題への対策を考えさせ、「その会議で決まったことの実行」でその対策の実行の結果、「最後」という欄で最終的なまとめを考えさせることにした。

【3】-3 教材 e (二次の1・2時限目)

教材 e-1、2「劇評価のためのワークシート」、e-3「授業のまとめワークシート」を作成し、以下に示した。

STORY①について					
1班					
タイトル					
ゆとりある介護	ゆとりある介護の大切さ			感想(簡単に)	
	1	2	3		4
家族での協力	家族での協力の大切さ				
	1	2	3	4	
衣食住の家事技能	衣食住の家事技能の大切さ				
	1	2	3	4	

項目	ゆとりある介護の大切さ	家族での協力の大切さ	衣食住の家事技能の大切さ
最もよかった班			

e-1: 劇の評価シート(個人メモ用)
e-2: 劇の評価シート(提出用)

性別(男・女) 名前()

ゆとりある介護の要素

家族の協力

家族間のコミュニケーション

家事技能

生活時間の調整

家族への気遣い

仕事の分担

介護サービスの利用

家庭科

で学習することができる。

中学校までの学習では

自立

のための学習

高校の学習では

(男女)が相互に
(協力)して(家族)の
一員として役割を果たし
(家庭)を築くことの重要性

今回の授業を受けての感想を自由に書いてください

e-3: 授業のまとめワークシート

図7: 教材 e (上部: 劇評価シート、下部: 授業のまとめワークシート)

他の班の劇を鑑賞することは、自分の班と同じ内容があれば、その普遍性に気付き、違うところがあれば、独自性に気付くような振り返りができることから e-1 を作成し、他の班の劇の評価をさせた。

e-2 は、e-1 の評価を参考に全ての劇を通して、「ゆとりある介護の大切さ」、「家族での協力の大切さ」、「衣食住の家事技能の大切さ」の 3 つの観点から最も当てはまる班を e-2 に書かせるために作成した。

e-3 は、「授業のまとめワークシート」である。より良い介護のためにはゆとりある介護が必要である。ゆとりある介護の要素として、「家族の協力」「家族間のコミュニケーション」「家事技能」「生活時間の調整」「家族への気遣い」「仕事の分担」「介護サービスの利用」の 7 つがある。これらを理解させるために空欄を設けた。そして、これらは、すべて家庭科で学習できることに気付かせるため、「家庭科」と記述させる空欄を設けた。また、中学校までの家庭科の学習によって、生徒が自立できていることが前提であることを理解させ、さらに高校の家庭科では、今回の高齢者介護問題など家庭で起こりうる問題に関して、男女が協力し、家族の一員としての責任感を学習させ、この学習が家庭を築いていく上で重要であることを理解させることにした。また、今回の授業全体の感想を自由記述として書かせ、授業全体の評価を生徒にさせることにした。

3. まとめ

3-1 指導案

【1】 1次

【1】-1 第1時

NHK「防げなかった悲劇～相次ぐ介護心中・殺人事件～」事例片桐、松本による高齢者介護問題に関する学習意欲の喚起及び介護問題の把握→家庭介護&家庭介護サービスとは→一人でする介護→ゆとりある介護と→NHK「防げなかった悲劇～相次ぐ介護心中・殺人事件～」事例松本（再登場）→A,B

【1】-2 第2時

A→家事に不慣れな男性の介護者による問題→介護は女性がするものか→家事技能は男女が学習してきた→モデル家族①

B→介護される高齢者が介護サービスを断る場合→モデル家族②

各個人でモデル家族①②についての story 作成後、班に持ち寄って各班で 1 story を作成

【2】 2次

【2】-1 第1時

各班にロールプレイング練習後、実演。鑑賞する生徒はそれを評価する。

【2】-2 第2時

授業のまとめとして、ゆとりある介護の要素「家族の協力」、「家族間のコミュニケーション」、「家事技能」、「生活時間の調整」、「家族への気遣い」、「仕事の分担」、「介護サービスの利用」の確認→これらは家庭科学習内容であることの確認→中学校家庭科の意味→高校家庭科の目標確認

3-2 教材

- a 「高齢者介護問題、介護サービス」
- b 「介護サービスの利用、介護の関わる法律及びそれに反した新聞記事」
- c 「劇作成のためのワークシート」
- d 「シナリオ作成シート及び台詞用シート（班用）」
- e 「劇評価シート、授業のまとめワークシート」

4. おわりに

NHK ビデオ「介護心中・殺人事件」の解決はゆとりある介護を行うことである。それは家庭介護と施設介護を合わせたものであり、そこには「家族の協力」、「家族間のコミュニケーション」、「家事技能」、「生活時間の調整」、「家族への気遣い」、「仕事の分担」、「介護サービスの利用」が必要である。これらは家庭科の学習内容であり、このことが介護とリンクできることに気づかせなければならない。高校生は家庭科を新しい家庭を築くために必要な教科としてとらえるばかりでなく、その先にある高齢者介護にも役立つという認識をこの授業を通して持たせることが高齢者の介護問題解決に向けて大きな力を発揮すると考えられる。授業の様子¹²⁾、この指導案による授業の学習効果¹³⁾については別の論文に発表する。

参考文献

- 1) 内閣府：「平成 17 年度版 高齢社会白書」
- 2) NHK：クローズアップ現代「防げなかった悲劇～相次ぐ介護心中・殺人事件～」 2006 年 06 月 29（木） 放映
- 3) 武田京子：「老女はなぜ家族に殺されるのか」 ミネルバ書房（1994）
- 4) 森本順子「体験学習を通し、高齢者とのかかわりを考える授業」 第 35 回中国・四国地区中学校技術・家庭科研究大会第 37 回鳥取県中学校技術・家庭科研究大会鳥取大会要録、p107-110（1997）
- 5) 川添由紀子「高齢者の生活と福祉 ～高齢者と生きる～」家庭科教育教材データベース
- 6) 伊藤佐和子「人の一生と家族・子どもと高齢者の生活と福祉」 家庭科部会会報、第 5 号、p50-56（2004）家庭学会誌、30 号、p9-17（1996）
- 7) 山本圭郎・入江和夫「高齢者学習の予備的研究」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、第 24 号、p155-164（2007）
- 8) 金子利子ほか：「家庭総合」 開隆堂（平成 14 年）
- 9) 『介護サービスの手続きから利用まで「介護保険」』 新企画出版社
- 10) 読売新聞：「[社説]介護放棄死 悲劇の背後にある家族の崩壊」 東京朝刊 2007 年 2 月 18 日
- 11) 読売新聞：『東大阪の民家 3 遺体 81 歳女性が介護支援などを拒否「もう構わないで」大阪夕刊 2005 年 1 月 19 日
- 12) 山本圭郎・山野京子・入江和夫「高校家庭科の高齢者介護問題に関するロールプレイングの授業実践」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、第 25 号、p213-227（2008）

- 13) 山本圭郎・山野京子・入江和夫「高校家庭科の高齢者介護問題に関するロールプレイ教材の学習効果」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、第 25 号、p229-240 (2008)